

発達障害と私 ～いま、振り返って思うこと～

広汎性発達障害とは

コミュニケーション能力や社会性に関連する脳の領域に関係する発達障害の総称です。冗談や皮肉の意味がわからず、言葉をそのまま受け止めてしまう・相手の気持ちを考えられず、言うてはいけないことも言うてしまう・話し方が独特であり、ですます調や抑揚のない話し方をする・言語の発達が遅い（または失語）がみられるなどの特徴があります。広汎性発達障害の原因は明らかになっていませんが、遺伝や染色体異常などの生物学的な異常によって発生すると考えられています。育て方や本人の怠慢などが原因ではありません。（出典：「発達障害療育の糸口（<http://dditoguchi.jp/>）」より）

この夏思い切って
東山青少年活動センター
の演劇ビギナーズユニットに初
出演しました。はじめは大きな声
が出られず、後半は大きな声
が出るようになり、演劇が
楽しくなってきました。



私は今、人と話すときにどうしたらよいかわからない時があります。小学生の時は非常に活発でした。しかし、時折り人の気持ちが読めない場面、例えば、人が傷つくような言葉を何回も言うてしまうことがありました。そのたびに、学校の先生や親に注意されました。でも止めようとしてなかなか止めることができませんでした。中学校に入ったら、今までのように人を傷つけてばかりでは、いけないと考えました。それで、私は人と話さないようになり、小学校の同級生から、「なんで中学校に入って話さなくなったの？」と聞かれました。その理由をうまく話すことができない自分が嫌になりました。高校2年生のあたりから、人と話さなくなる自分を変えたいと思うようになり、自分の今までの事情を知る人がいない地域に移住しようと思いました。それから受験勉強を始めて、第一志望の大学に入学することができました。また、テレビで、発達障害の特集を見て、「私も自分はいかなるかな」と思いました。大学1年生の時には、自分を変えようとしたものの、高校まで人と話すことができなかったもので、サークルに入ることも恐怖心からできませんでした。授業に出る回数も少なくなりました。その頃に、京都市発達障害者支援センター「かがやき」を知り、利用したいと思いました。「かがやき」を利用するために、精神科に行つて診察を受け「広汎性発達障害」と診断されました。

2回生のとき「かがやき」で、京都市ユニ
分けるアルバイトが始まるまで、毎日頭をよ
ぎりました。

アルバイトで、初めてお金を稼いだとい
う自信が生まれました。さらに、自分は単
純な作業であれば、さほど苦痛でなく、向
いていると思えました。3回生になると、
初めて長期のアルバイトを始めました。飲
食のバイトで、お客さんの注文にこたえて
配膳する作業で、覚えるのに時間がかかり
ました。また、障害福祉系のボランティア
もしました。自分も障がいがあるので、障
がいを持っている人の力になれたらと思
いました。しかし、自分には福祉業界は向
いていないと思えてきました。私は想定外
の事態に対応するのが非常に難しく、すべ
パニック状態になってしまい、周りの人に迷
惑をかけてしまうことがわかりました。

スサービス協会の「子
ども・若者支援室」を
紹介してもらいました。
ここでは、支援コーディ
ネーターの方と1対1
の面談が2週間に1回
ほどのペースで行われ
ました。話す時間は1
時間くらいでした。主
に話したことは、大学
生活で抱えている不安・将来への不安など
でした。そこで、今までのつらさを話すこ
とで、少し楽になりました。さらに北青少
年活動センターの居場所事業に参加し、久
しぶりに同世代の人と関わりました。しか
し、当時は人と話すことに恐怖を覚えてい
たので、ユースワーカーの方としか話すこ
とができませんでした。「あなたは、物事
を考えすぎて、人と話すのを自分で避けて
いる。だから、一言でもいいから、この事
業の参加者に話しかけたらどうか？」とア
ドバイスされました。接し方を学ぶこと
によって、少しずつ人への恐怖心が消え、事
業の参加者とも話せるようになりました。

2回生の12月には、初めてアルバイトを
経験しました。郵便局での年賀状の仕分け
でした。きつかけは、本が好きなので、本
を買うお金がほしかったこと、自分でお
金を稼ぐことによって、自信をつけたかっ
たからです。はじめはとても不安でした。
自分は働けるのだろうか、大きなミスをし
ないだろうかといったことが、年賀状の仕
合宿は、希望したものの、直前になると、
初めての地で、対人関係も自信がなかった
ので、何度も「行きたくない、行きたくない」
と周りの人にグチをこぼしていました。免
許そのものは、学科は特に問題ありません
でしたが、運転のほうに、注意力散漫にな
りやすいので、教官から「独りよがりな運転」
「これで大丈夫か？」などと指摘されました。
しかし、なんとが、仮免、卒業試験ともに
一発で合格することができました。

3回生の3月になると就活が解禁されま
した。何をしようか全く分かりません
でした。いまも自分はどんな仕事をしたら
よいのかを模索し続けています。

振り返って思うのは、得意なことと苦手
なことがはっきりしていることです。年
賀状の仕分けのアルバイトのように単純な
反復作業は得意でも、福祉業界のような
次に何が起こるか予測しにくいのは非常に
苦手なことです。

また、想定外に弱いというのは、人と話
すとき（特に初対面の人）にも、現れてき
ます。次にどんな話題が来るかわからない
ので、どのように対応してよいかわかりま
せん。人の話を聞くことならばできるので
すが、自分から話すというのは苦勞します。
でも私は環境が整っていれば、障がいの有
無にかかわらず、本来の力を発揮できると
今では思っています。

